

東京オリンピック・パラリンピック推進事業実績報告

資料7

| | 項目 | 概要 | 成果 | ①決算額(円) | | | | ②補助金額(円) | | | | ①-②一般財源 | |
|---|----------------------|------------------------------------|---|---|-----------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|------------|------------|-----------|
| | | | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 3年合計 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 3年合計 | | |
| 1 | 自転車競技ロードレース事業 | ① 東京2020オリンピック自転車競技ロードレース8市連携事業 | 【令和元年】・自転車競技ロードレースPR動画制作 ⇒ロングver. (約9分) : 5479回再生 ショートver. (約3分) : 357回再生 ・8市合同記者会見 ⇒約30名の一般参加 【令和2年】・電車内広告 ⇒京王線(京王井の頭線を除く)、JR中央線快速(中央特快・青梅特快を除く)、JR南武線・鶴見線に約1ヵ月間掲出 【令和3年】・自転車競技ロードレース都内コース体験イベント(アプリを利用したスタンプラリー) ⇒延べ申込者616名 | 5,000,000 | 4,977,500 | 5,000,000 | 14,977,500 | 5,000,000 | 4,977,500 | 5,000,000 | 14,977,500 | 0 | |
| | | ② オリンピックと自転車競技の専門家によるトークショー | 多摩市が東京2020大会オリンピック自転車競技ロードレースの会場(コース)となることを契機に、オリンピックの気運醸成を図るとともに、次代を担う子どもたちを中心にオリンピックに関わる機会を創り、その楽しさと感動を体験し、かけがえのない体験(経験)として未来に繋げていくことを目的に実施したが、新型コロナウイルスの影響により実施直前で無観客で開催する仕様に変更した。 実施予定であった、オリンピックと自転車競技の専門家によるトークショーと自転車競技体験の様子はYouTubeに公開し、小中学生向けと市民向けに分けて公開した。 | 市民向け →延べ862回再生 小中学生向け→延べ2,005回再生 競技体験 →延べ1,132回再生 | 0 | 0 | 3,397,680 | 3,397,680 | 0 | 0 | 3,397,680 | 3,397,680 | 0 |
| | | ③ 交通規制等、市民周知用チラシの作成・配布 | 【テストイベント】 令和元年7月21日(日)に実施された「READY STEADY TOKYO-自転車競技ロード」に伴う市内の交通規制について、広く市民に周知し、理解してもらえよう、チラシの作成・配布を行った。 【大会本番】 令和3年7月24日(土)・25日(日)に実施された「東京2020オリンピック自転車競技ロードレース」に伴う市内の交通規制について、広く市民に周知し、理解してもらえよう、チラシの作成・配布を行った。 | ①規制地図 ②自転車競技ロードレース観戦マナー ③自転車競技にまつわるクイズ ④市内公共交通機関の運行状況 | 101,412 | 0 | 1,680,386 | 1,781,798 | 42,054 | 0 | 1,680,386 | 1,722,440 | 59,358 |
| 2 | 聖火リレー事業 | ① 東京2020大会関連広報作成・配布業務委託 | 東京2020オリンピック聖火リレーについては、令和3年7月10日(東京都2日目の出発式会場)開催に向けて準備を進めていたが、同年6月29日に東京都が7月10日開催の公道走行および出発式を中止し、八王子市でのセレモニーのみの開催に変更したため、多摩市内での走行および出発式は中止となった。 ただし、中止が開催直前であったことから、委託業務のキャンセル料および準備経費の支払いが発生した。 | ①規制地図 ②聖火リレー観戦マナー ③聖火リレー基礎知識 ④市内公共交通機関の運行状況 | 0 | 0 | 1,465,200 | 1,465,200 | 0 | 0 | 732,000 | 732,000 | 733,200 |
| | | ② オリンピック聖火リレー出発式業務委託 | | | 0 | 0 | 231,000 | 231,000 | 0 | 0 | 115,000 | 115,000 | 116,000 |
| | | ③ 採火式運営業務委託 | 東京2020パラリンピック聖火について、新型コロナウイルスが収束していない中ではあったが、令和3年8月20日に多摩市内での「多摩市の火」採火式および「東京都の火」の展示を実施した。 「多摩市の火」採火式では感染症対策を講じた上でロウソクリレーを実施し、各々の思いを乗せて次の人へと火がリレーされた。 | ロウソクリレーには約100名が参加した | 0 | 0 | 330,000 | 330,000 | 0 | 0 | 220,000 | 220,000 | 110,000 |
| | | ④ 聖火ビジット警備業務委託 | 「東京都の火」の展示は、多摩市内4か所(京王聖蹟桜ヶ丘SC A館スカイプラザ、小田急永山駅構内、京王多摩センター駅構内、温水プール交流スペース)で展示し、多くの人が「東京都の火」を一目見ようと足を運んだ。 | 市内4か所×2人 | 0 | 0 | 184,800 | 184,800 | 0 | 0 | 123,000 | 123,000 | 61,800 |
| 3 | 多摩市・国士舘大学連携事業実施業務 | 多摩市・国士舘大学連携事業実施業務 | 「多摩市と国士舘大学との東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組に関する連携協定」に基づき、以下の事業を実施。 平成29年8月31日に宝野公園で行われた「夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会」を契機に平成30年度・令和元年度・令和2年度に引き続き、「楽しく！美しい！ラジオ体操教室」を市内のコミュニティセンター3会場(延べ3日間)を巡回し実施した。参加者の多くが目標としていたラジオ体操第1・第2の一つひとつの運動・動作を正しく習得することができた。 なお、本教室は換気や手指消毒、会場での参加定員の削減などの新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で行った。 | 【令和元年】 ・トップアスリート等を招いた講演会→151人 ・ラジオ体操教室→548人 【令和2年】 ・オリンピック・パラリンピックの理念や歴史に関するセミナー→62人 ・ラジオ体操教室 →現地参加89人/オンライン最大同時接続数延べ77人 【令和3年】 ・ラジオ体操教室→39人 | 2,496,527 | 1,109,209 | 54,000 | 3,659,736 | 1,035,280 | 555,000 | 27,000 | 1,617,280 | 2,042,456 |
| 4 | 事前キャンプ受入及びホストタウン関連事業 | 事前キャンプ受入及びホストタウン関連事業 | 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の期間前に本市で実施した、アイスランド共和国オリンピック選手団・パラリンピック選手団の事前キャンプにおける、受入準備、及び同選手団の受入及びホストタウン関連事業実施に関する業務を委託した。 オリンピック選手団受入時は国のガイドラインに基づく感染防止対策を最優先としたため、選手団と市民との交流はできなかったが、YouTubeでの動画公開、SNSやホームページを活用した情報発信を行った。一方、パラリンピック選手団受入時は感染防止対策に万全を期した上で、選手団と多摩市民のオンライン交流会、公開練習見学を実施した。 | 交渉相手 【令和元・2年度】 ・アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会(ISI) ・アイスランド障がい者スポーツ協会(NPCアイスランド) ・台湾パドミントン協会 【令和3年度】 ・アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会(ISI) ・アイスランド障がい者スポーツ協会(NPCアイスランド) | 2,164,800 | 0 | 31,058,670 | 33,223,470 | 897,716 | 0 | 31,058,670 | 31,956,386 | 1,267,084 |
| | | | アイスランド共和国オリンピック選手団・パラリンピック選手団の応援用懸垂幕・横断幕、ホストタウン周知用のぼり旗等を購入し、東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成、アイスランドの事前キャンプ地及びホストタウンであることの周知などのために使用した。 なお、選手団応援用の横断幕や卓上旗セット等は令和2年度に購入したものを使用したため、令和3年度において費用は発生していない。 | ・卓上旗セット等(ホストタウン連携協定締結式用) ・懸垂幕、横断幕(選手団応援用) ・のぼり旗(ホストタウン周知) | 0 | 261,459 | 0 | 261,459 | 0 | 261,459 | 0 | 261,459 | 0 |

| | 項目 | 概要 | 成果 | ①決算額(円) | | | | ②補助金額(円) | | | | ①-②一般財源 | |
|----|-------------------------|--|---|--|-----------|------------|------------|-----------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|
| | | | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 3年合計 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 3年合計 | 3年合計 | |
| 5 | ① コミュニティライブ サイト事業 | 東京2020大会自転車競技ロードレースの開催に合わせ、市内車列通過後も、継続して自転車競技ロードレースをライブ中継で展開し、オリンピックの臨場感や一体感を、市民をはじめ、多くの観戦者と共に関心を持って参加している感動を共有できる場を提供するために準備を進めていたが、令和3年6月19日に東京都主催のすべてのライブサイト、パブリックビューイングの中止決定を受け、同年6月24日に多摩市としても中止を決定した。 ただし、中止決定となったのが開催間近であったため、準備費用、キャンセル料が発生した。 | 中止 | 0 | 0 | 4,055,260 | 4,055,260 | 0 | 0 | 2,690,170 | 2,690,170 | 1,365,090 | |
| | ② 5市連携事業 | 令和2年度に東京2020オリンピック自転車競技ロードレースが開催される都内自治体の内、コミュニティライブサイトを実施する予定であった5市(府中市、稲城市、多摩市、八王子市、町田市)が、自転車競技ロードレースに係る東京2020オリンピックコミュニティライブサイトの開催を契機とするスポーツ振興、観光振興、各市のコミュニティライブサイトへの集客等多摩地域の振興を目的として行う事業を広域的に連携して実施するため、自転車競技ロードレースに係る東京2020オリンピックコミュニティライブサイト5市合同連絡会を設置した。 令和3年度は5市連携事業として、自転車競技ロードレースの観戦情報誌「TAMA AREA ROAD RACE EXPRESS」を作成した。 コミュニティライブサイトは中止となってしまったが、自転車競技ロードレースは開催されるため都内5市の公共施設等で配布し、広く周知を行った。 | 観戦情報誌「TAMA AREA ROAD RACE EXPRESS」 →概要版40,000部 →速報版20,000部 | 0 | 0 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 | 0 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 | |
| 6 | シティドレッシング 事業 | シティドレッシング事業 | 東京2020大会に際し、自転車競技ロードレースが通過する多摩センター駅周辺を世界に対して広く発信するとともに、大会へ向けた市民の気運醸成、地元の活性化のため、また、アイスランド共和国オリンピック・パラリンピック選手団が事前キャンプにおいて宿泊する施設周辺に「おもてなし」の意を込め、都市装飾を行った。 なお、バナー等は令和2年度に購入したものを使用したため、令和3年度において費用は発生していない。 | ・シティドレッシング用バナー作成 →東京2020オリンピック・パラリンピック柄 192枚 →アイスランド共和国関連柄 34枚 ・街路灯フラッグアーム設計及び作成 →バナーを掲出する街路灯のうち、フラッグアーム未設置の街路灯へフラッグアームを設計・作製・設置 55本 | 0 | 2,986,720 | 159,500 | 3,146,220 | 0 | 1,493,000 | 79,000 | 1,572,000 | 1,574,220 |
| 7 | 多摩市ゆかりの選 手応援事業 | 多摩市ゆかりの選手 応援事業 | 平成29・30年度は「シリーズ東京2020大会国士舘大学注目の選手紹介!」、令和元年度は「シリーズ東京2020大会特別企画多摩市ゆかりの選手応援プロジェクト」と題し、東京2020大会への出場を目指している選手を応援する事業を実施してきた。令和3年度は東京2020大会に出場する選手が決定したことから、横断幕・懸垂幕とポスターを制作し市内公共施設等に掲出した。 また、大会終了後には東京2020大会に出場した選手をお招きし、「東京2020大会 感動をありがとうイベントinTAMA」を実施した。 | ・消耗品 →横断幕、懸垂幕 ・印刷製本費 →ポスター ・委託費 →東京2020大会終了後イベント企画運営業務委託 →東京2020大会終了後イベント映像編集業務委託 | 151,800 | 0 | 2,528,845 | 2,680,645 | 62,950 | 0 | 2,528,845 | 2,591,795 | 88,850 |
| 8 | 東京2020大会レガ シー事業 | 東京2020大会レガ シー事業 | 東京2020大会に向けた気運醸成の取組や聖火リレー、多摩市内がコースの一部となっている自転車競技ロードレース、市内で行われる事前キャンプ、多摩市ゆかりの選手の活躍、大会後のイベントなど多摩市における東京2020大会の感動を後世に引き継いでいくために、報告書や記録映像、銘板を制作した。 | ・委託費 →東京2020大会多摩市報告書制作業務委託 →東京2020大会多摩市記録映像制作業務委託 →銘板制作・設置業務委託 | 0 | 0 | 2,847,411 | 2,847,411 | 0 | 0 | 1,606,856 | 1,606,856 | 1,240,556 |
| | | | | 9,914,539 | 9,334,888 | 57,992,752 | 77,242,179 | 7,038,000 | 7,286,959 | 54,258,607 | 68,583,566 | 8,658,614 | |
| 総括 | | 東京2020大会は新型コロナウイルスの影響もあり、思い描いていたものとは大きく異なる大会となりました。しかし、大会を通して得たさまざまな経験やつながりが、将来に引き継いでいくべき貴重な「レガシー」として、私たちの手に残りました。1つ目はオリンピック自転車競技ロードレースです。テストイベントと東京2020大会の2回、多くのサポーターがレースを支え、多摩市スポーツボランティア設立の基盤となりました。2つ目はパラスポーツの一つであるポッチャの普及です。共生社会を体現したともいべきポッチャを通じた交流は、互いの違いを認め合い共に生きる社会の広がりを見せています。令和5年6月4日には、多摩市内の実に49団体が参加したポッチャ2023TAMAカップが開催され、12月には第4回ポッチャフレンドカップが開催予定であり、多摩市内で大きな広がりを見せています。3つ目はアイスランド共和国との出会い、交流の始まりです。交流を継続させ、深めていくために令和3年12月に「駐日アイスランド大使館と多摩市との友好協力関係に関する覚書」を締結しました。多摩市では毎年アイスランド共和国の独立記念日である6月17日の前後の週末をアイスランドウィークとして、まち全体でアイスランド共和国の紹介パネル展示や食文化の体験、特産品販売などを行っています。今後も様々な形の交流を模索していき、アイスランドとの交流をより深めていきます。最後に、オリンピックが目標とする「人間の尊厳の保持に重きを置く社会の推進」に向け取り組むことの大切さを、オリンピックが開催されるたびに思い起こすことこそが、東京2020大会のレガシーとなります。 | | | | | | | | | | | |